戦争と平和の資料館
ピースあいちニュース
第42号
2023年4月1日発行
〒465-0091
愛知県名古屋市名東区
よもぎ台2丁目820
電話・FAX 052-602-4222
発行:戦争と平和の資料館ピースあいち　http://peace-aichi.com/　【定価:30円】

開催中　企画展「地図と写真で見る名古屋と戦争」

3月7日（火）～5月6日（土）

3月は、戦時下、名古屋市街地への米軍の空襲が最も激しかった月です。ピースあいちでは毎年この時期、いろいろな角度から「名古屋への空襲」を取り上げてきました。今年の主役は地図と写真です。

明治から昭和にかけて発行された名古屋市の地図、そこからは軍施設や軍需工場など日本の戦争に関わる施設がどんどん作られていく様子を見ることができます。ところが、ある時から突然、それらの施設や工場が消えてしまいます。地形図に至っては、陸軍施設と兵器工場のあった場所が市街地として描かれています。正確さを優先させてきた地図から事実が消され、地形図が「改描」されたのです。その背景には、戦時下の地図の作成・発行に関する法令「軍事保護法」がありました。

一方、米軍は、名古屋の工場や市街地を焼きつくすために、たとえば堀川に架かる橋が木橋かどうかまで調べつくした地図を作成し、それを手がかりに爆撃目標のリストを作っていました。

今回の展示では、明治から昭和前半に作成された日本の地図と米軍撮影の空中写真、米軍作成地図などを通して「名古屋と戦争」について考えます。

また、戦後、GHQの文民スタッフとして来日したロバート・モージャー氏が撮影した写真（国立公文書館所蔵）から、名古屋の焼け跡の街や人々の姿を紹介しています。

● 展示内容 ●
1. 地図で見る名古屋城郭の変遷
2. 拡大する名古屋の陸軍施設・兵器工場
3. 地図から消された軍事施設と兵器工場
4. 「改描」された地形図－軍事保護法改正
5. 米軍作成の地図と軍事施設、そして名古屋は。
軍事秘密　陸軍参謀本部が作成した「幻の地図」
◇写真で見る名古屋の焼け跡と復興

■ 空襲展感想 ■
- 地図の比較、地図の変わっていく様子がおもしろかった。
- 軍の建物や工場が地図から消された！戦争をすすめるためにそこまでするんだ！と恐ろしくなりました。
- 父から栄付近の空襲をよく聞かされていましたので、興味深く見学した。
- 子どもの頃、白川公園にあったアメリカ村の近くに住んでいて、懐かしく思いました。
- 愛知時計本社の爆撃後写真は初めてみました。興味深い。

予告「開館16周年 ピースまつり」は5月6日（土）11時～16時です。

入館無料

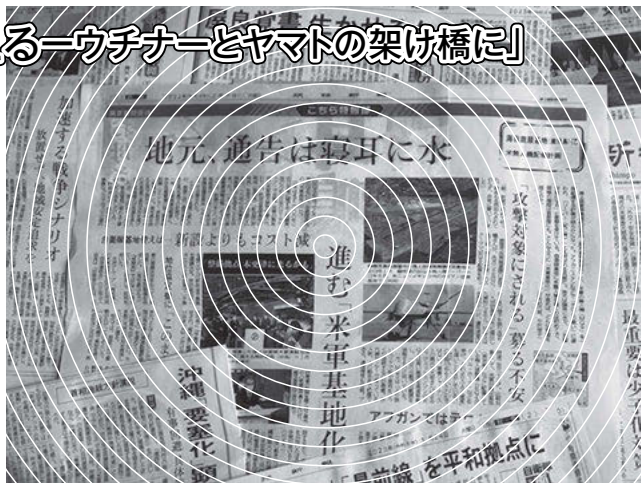
2007年5月4日に開館して16周年目のピースあいち。今年のピースまつりは、1階交流のひろばでのステージ企画を準備しています。

①辻井麻伽さんピアノ演奏／人気のジブリ曲やみんなが知っている5曲
②ピースあいち朗読の会オリーブ／「ウクライナから来た少女ズラータ16歳の日記」など5作品
③『ビートルズ世代の渋井康弘さんがギターで歌うLOVE&PEACE』

館内の展示ガイドも行います。連休の一日をピースあいちでお過ごしください。時間など詳しくはホームページをご覧ください。

予告 準常設展 「沖縄から平和を考える―ウチナーとヤマトの架け橋に」

5月16日（火）～7月8日（土）
《最終日は15時まで》



光あふれるサンゴ礁の海、その海に囲まれた沖縄。旅をしてみたくなる明るい島々です。

しかし、あの悲惨な沖縄戦から78年たった今も、沖縄は依然として基地の島のままです。普天間基地移設に伴う辺野古の海の埋め立ては県民投票の結果を無視して着々と進められており、基地のための予算は毎年、着実に増えています。

沖縄本島を含む南西諸島の軍事要塞化も進んでいます。2016年には最西端の与那国島に陸上自衛隊・沿岸監視部隊が配備され、奄美大島、宮古島にミサイル基地が開設されました。石垣島にもミサイル部隊の配備が予定されています。

沖縄の人々の心に寄り添うことは平和を考えることと、毎年開催している沖縄展。今年は準常設展示に加え、南西諸島の現状を取り上げます。

【関連イベント 1】
映画『沖縄スパイ戦史』上映会
日時 6月11日（日）13時上映スタート（上映時間114分）16時まで
場所 ピースあいち1階 交流のひろば（上映終了後「沖縄展」を観覧できます。）
会費 ピースあいちの入館料（大人300円・高校生100円）でご覧いただけます。
《概要》 沖縄戦におけるゲリラ戦やスパイ戦を取り上げた、2018年公開のドキュメンタリー映画。少年兵による「護郷隊」が沖縄戦終結後も沖縄本島北部でゲリラ戦を継続していたことを暴きだした話題作です。この上映会は、小島敬さんのご寄付で開催します。

予約制 50名
電話（052-602-4222）でお申し込みください。

【関連イベント 2】
「沖縄慰霊の日」
講演会と沖縄戦の語り継ぎ
日時 6月24日（土）13時30分から15時まで
場所 ピースあいち1階 交流のひろば
講演 阪井 芳貴氏（名古屋市立大学名誉教授）
テーマ 慰霊の日に「新しい戦前」を考える
語り継ぎ
服部忠一朗（ピースあいち語り継ぎ手の会）
「比嘉俊太郎の沖縄戦での体験」
予約制 30名
電話（052-602-4222）でお申し込みください。
＊イベントは新型コロナの感染状況により中止することがあります。

予告 ピースあいち夏の企画展
「新美南吉の生きた時代―文学と戦争と平和」

7月18日（火）～9月9日（土）

「ごんぎつね」「手袋を買いに」「でんでんむしのかなしみ」など、多くの作品が大人から子どもまで愛されている児童文学作家・新美南吉。1913（大正2）年に現在の半田市で生まれ、初めての童話集を出した翌年1943（昭和18）年3月、29歳という若さでこの世を去りました。今年は生誕110年を迎えます。

大正デモクラシーという新しい時代の息吹を浴びた幼少時代、そして15年戦争を突き進む日本。創作に命をかけた青年はこの時代をどう見つめ、文学へと昇華していったのでしょう。新美南吉の文学と人生に迫ります。

報告 椙山女学園高校「国際理解・平和」で講演 2月1日（水）

椙山女学園高校では2年生を対象にした総合学習の授業に外部講師を招いています。今回は、ピースあいちから中村桂子さん（ピースあいち語り継ぎ手の会代表）が講演をしました。中村さんは「父 元日本兵 日比野勝廣の沖縄戦」を語り継いでいます。父の戦場体験と戦後に沖縄を訪れた時のことなど、父の遺した平和を思うメッセージを1クラス36人に話しました。生徒たちは日比野さんが語るビデオを視聴するなど沖縄戦の事前学習を済ませていて、熱心に参加してくれました。

報告　第10回寄贈品展「つなげていこう平和の願い」 2022年12月6日～2023年2月25日（土）
関連イベント　「トークトーク　遺品と向き合うということ」　1月28日（土）

遺されたもの（遺品・寄贈品）を手にした3者の取り組みを紹介するイベントを行いました。

資料班は通常の寄贈品の受け入れから保管まで、そして今回の寄贈者26人寄贈品367点の取り組みから感じた事などを報告。寄贈への心配りや細かな作業を担当する絶妙のチームワークが感じられました。

続いては、小澤美由紀さん（ピースあいち語り継ぎ手の会）の「戦争体験の語り継ぎ」。小澤さんの大叔父は海軍上等水兵で、トラック島の海戦で1944年に17歳で戦死しました。直接会ったことのない大叔父の遺品が実家にあり、それを手にした小澤さんは心を動かされ、その戦争を知る人と資料を探ってきたそうです。語り継ぎの奥深さを教えられたように感じました。

その後、小澤さんの遺品を調査してきた広中一成さん（愛知学院大学准教授・日中戦争研究）と、遺品を巡っての対談。戦時の背景や軍用語、文書の読み取りは容易ではありません。研究者のアドバイスがあって分かりやすく正確に伝えられます。

資料班によると、寄贈者は体験者よりも子、孫の世代に移ってきているそうです。戦争を伝える取り組みは、遺品と共に、戦争を体験しない世代が引き継ぐ時代へと向かいます。今回の寄贈品展のテーマ「つなげていこう平和への願い」が印象付けられました。

ピースあいち資料班の報告

小澤美由紀さんと広中一成さんの対談

報告　名古屋空襲から78年
空襲犠牲者追悼の夕べ　3月11日（土）

第1部は、田中玲子さん（ピースあいち語り継ぎ手の会）の「私の語り継ぐ戦争」。田中さんのお父さんの三重県津市の空襲体験から始まり、1945（昭和20）年6月9日、わずか8分間の空襲で2000人余の人々の命が奪われた熱田空襲の体験者のお話に移りました。当時、中京高等女学校2年で愛知時計電機船方工場へ学徒動員されていた堤茂子さんの体験と、愛知県の巡査で救助にあたった桜井純さん（当時18歳）が描いた絵も交えての語りでした。

第2部のともし火法要は、平和地蔵前で40人ほどで行いました。建昌寺と瑞光寺の僧侶の読経が響く中、「ウクライナに平和を」「争いのないない地球に」と、ともし火のメッセージが揺らいでいました。

米軍が投下した2トン爆弾（原寸大タペストリー）前で話す田中さん

ボランティアガイドから

研究心旺盛な大学生の来館

新型コロナの関係でガイドを希望する団体が減ってきたが、同じ大学の法学部の学生が2度来館した。

一度目は平和思想の潮流を知りたいということだったので、古代ギリシアの平和思想から、ホッブス、ルソー、カント等の近代を中心に、ガンジー、キング牧師らの非暴力平和を、さらに現代のガルトングまでの思想の流れを簡単に説明した。彼らはウクライナの資料を用意し、ガイド後は討論をしていた。

二度目の学生たちは名古屋の捕虜収容所のことを知りたがっていた。日清、日露、第一次世界大戦の戦争で名古屋に捕虜がやってきたこと、日本で死んだ捕虜たちの墓地が平和公園にあること。解放後、日本の産業に尽くしたことを実例をもって話した。さらに、イタリア人捕虜が八事に収容され、小原村に移動させられ、そこで戦後を迎え、イタリアに帰ったことなどを話した。彼らは、平和公園に行き、墓地を見てくると意欲的であった。

こういうガイドは楽しい。　（野田隆稔）

平和へのメッセージ

ウクライナの戦争は始まって1年が過ぎた。いつまで続くのか、集まった人たちが暗い思いでみている。と、一人が声を出す。「ところで、今さらだけど、この戦争の原因は何なの?」。周りの人たちがそれに答えて言う。「旧ソ連時代は一つの国だった」「独立したら、すぐ西側陣営への鞍替えというのではロシアも腹が立つ」「ロシアは冬でも凍らない港が欲しい。黒海に面したウクライナはロシアにとっては力ずくでも奪いたい」。皆、それぞれに発言する。「それで、いつになったら戦争は終るの?」。一人の子どもが質問した。長老が答える。「分らん。動物の喧嘩と同じで、疲れてきたら終わる。ただ救いはある。人間には動物と違って知性と理性が備わっていることだ。それをいつ取り戻すか」。

ささやかな幸せ奪う戦争 許さない！

蛯原　京子
（ピースあいち会員）

「プロパガンダ」日常生活の中では、あまりお目にかからない言葉かも。

昨年、「ピースあいち夏の企画展　戦争プロパガンダ～国民を戦争に向かわせた宣伝たち」におじゃましました。風呂敷や雑誌の表紙、戦時ポスターや標語などが展示されていました。

展示の中で私が一番驚いたのは、駅弁の掛け紙までが戦意高揚に活用されていたことです。スーパーの駅弁大会の広告を見ると、なんだかワクワクする私です。今では、行き先が京都や大阪だと、食べている時間もないくらいに、新幹線はすぐに目的地に着いちゃいますが…。

戦争は、こんなささやかな楽しみさえ、私たちの暮らしから奪い、日常から意識を統制するために忍び寄ってくることを、あらためて実感しました。

現在、私は、自治体で働く人が加入する労働組合で仕事をしています。住民の豊かな暮らしと、そのために働く自治体労働者の暮らしの両方を大事にして、要求実現をめざします。

現政権がすすめる戦争する国づくり、住民から日常のくらしや幸せを奪う戦争遂行に加担することはできません。自治体労働者が、住民の幸せのために働く存在であり続けるために、私は、目や耳や口に蓋をせず、声を出すことをやめない人であり続けたいと思います。

日常の「平和」を考え、世界の「平和」へつなげる

岡山　敏明
（山県市歴史民俗資料館長）

山県市歴史民俗資料館の「平和学習展」は今年で3回目を迎えました。今年度も山県市内の多くの小学校6年生が授業の一環で訪れてくれました。

私は、ひと通り見学を終えた児童に「平和を築くにはどうしたらいい？」と問いかけ、次のようなことを提案しました。自分たちの日常のくらしの中で、①相手を思いやり、敬意をもって接すること、②何事も力で解決しないこと、③人権侵害を見逃さないこと、④事実かどうかを見極めて物事を判断すること、の4点です。

これらのことは、日ごろの人間関係の「平和」にとって大切なことかもしれません。しかし、こうした態度で人と接することは、個人を集団や国に置き換えたとき、争いに対する心のはどめ、または「平和を築く力」になると考えたのです。

山県市歴史民俗資料館の「平和学習展」が資料を見学し戦争がもたらす惨禍を学ぶだけではなく、平和を考え、「平和を築く力」が身につくものになるよう今後も見学方法に工夫を重ねていきたいと思います。

子どもたちに届けたい「平和へのメッセージ」

西田　義弘
（平田中学校教諭）

岸田政権による敵基地攻撃能力の保有と大軍拡宣言をした「安全保障三文書」の閣議決定。それに歩調をあわせたかのような広島市教育委員会による小学校3年生向けの平和教材からの6ページにわたる漫画「はだしのゲン」削除。そして、中学3年生の教材から第五福竜丸の教材も削除された。私は念のため今使っている歴史教科書と資料集を調べてみて驚いた。第五福竜丸の扱いが格段に小さくなっているではないか。これは偶然なのだろうか？

私は夏休みの課題として、昨年に続き「ピースあいち」を訪問しての平和新聞作りに取り組んだ。また福祉学習の責任者となり、「平和あっての福祉」ということで、ピースあいちの紹介で松下哲子さんを講師に、満州国からの引き揚げ体験の学習を行った。担当学年が中学1年ということもあり、歴史的背景を学ぶために2時間枠で事前学習を行った。当日は、松下さんの気迫ある講演に子どもたちも聴き入ったようであった。何人かの生徒が，『「また明日」が言える世界は平和だ』と言う松下さんの言葉を感想に書いていた。

今こそ子どもたちに平和へのメッセージを届けたい。

福井達雨の想い・行動

東野　裕子
（ピースあいち会員・ボランティア）

ピースあいちの研究会で「福井達雨」を目にした。重度の障がいを持つ子どもたちを「この子らに世の光を」と懇願するのではなく、「この子らを世の中の光に」と、この子らが光なのだと提唱した糸貫一雄（いとぬきかずお）氏と並び称される人である。

私が平和を思う時、それはどんな人間も等しく大切にされる社会だと思う。その対極である戦争は、沢山の生命を奪い、たくさんの障がい者をうみ出す。

ドイツのヘーゲルが唱えた哲学用語「アウフヘーベン（止揚）」をそのまま学園の名前として、1962年、福井氏は「止揚（しよう）学園」を創立した。障がいのある者とない者がぶつかり合って新しい世界を生み出していきたいとの想いでの命名だ。矛盾・対立する二つの概念を、その矛盾・対立を保ちながらより高次の段階で統一することを願い、想い、行動したのだ。ウクライナとロシアもそんな関係になれたらうれしいが、とても難しいことだ。

福井氏は『進歩した人間』像は、他人を思いやれる人間であるという。人間が大事にされる、人間を大切にする、そんな日々が平和につながると思う。

プーチンよ、大人になれ

久田　健吉
（哲学研究者）

プーチン露大統領のウクライナ侵攻の理由を聞いていると、道徳の退廃・衰退を感じずにはいられない。

大国ロシアがNATOの拡大（ネオナチズム）に黙っていていいのか。ネオナチズムに負けてたまるか。

これが本当の理由と聞く。しかし、もう唖然。こんな理由は非行少年グループの吐く論理。大国ロシアが言うことばではない。

戦後の高揚した道徳論を忘れたのか。戦争をしない国際関係をつくって、みんなで幸せになろう。これが戦後の出発点だった。これが戦後の道徳論だった。

先の大戦では、日本もロシアも大変な戦争被害民をだした。かけがえのない命を奪われた人、財産を奪われ路頭に投げ出された人は数知れず。この悲惨を目の当たりにして、戦争をしない道徳論はつくられた。

とりわけ日本は戦犯国であったことを反省し、平和憲法をつくりこの道徳運動の先頭に立った。

プーチン氏には反省を求めよう。非行少年的腹立ちから起こした侵攻であっても、この蛮行をいつまでもつづければ、第三次世界大戦と核戦争を誘発する恐れ大だ。

プーチンよ、蛮行をやめよ、大人になれと言おう。

報告　愛知県内小･中学校への平和支援事業

ピースあいち語り手の会･語り継ぎ手の会

2009年度から取り組んでいる愛知県･名古屋市「戦争に関する資料館運営協議会」からの委託事業「平和学習支援事業」は13年目を迎えました。今年度は県内11校の小･中学校で実施し、派遣した語り手、語り継ぎ手は11名、語りを聴いた児童生徒は1021名でした。

めざした効果は次のようです。

1.今から78年前に日本は中国をはじめ東南アジア諸国とアメリカ･ソ連を主とする連合国と戦争していた事実を知る。

2.戦争を通じて国民はどんな犠牲を払ったのか。子どもたちの生活がどのように厳しい情況であったかを知り、現在の生活とくらべて平和の尊さを理解する。

3.戦争は昔のことではなく、現在も戦争が行われており、核戦争の危機すらなくなっていない、一人ひとりが平和への貢献を尽くすことの大切さを理解する。

取り組んだ結果は、以下が挙げられます。

1.日本が世界の国々と戦争していたことについて、子どもたちには興味、関心を持たせ、戦争をしていた事実を理解する一助になった。

2.戦争は多くの人の尊い命を奪い、あらゆるものを破壊する残酷なものであることを理解した。

3.教師からは、「直接体験者、語り継ぎの方の話を聴く機会を持て、学校教育の中で平和教育の大切さを改めて痛感した」等の声が寄せられた。

4.語り手、語り継ぎ手からは、「子どもたちが真剣に聞いてくれた」等の感想があった。

今こそ平和支援事業が充実、継続した取り組みになることが求められています。

報告　ボランティア全体会、4年ぶりに開催　3月11日（土）

久しぶりの開催だったこともあり、30人を超す参加がありました。参加された方の半数がここ数年でボランティア活動に加わっていただいた方々でした。高校2年生から86歳の方まで、それぞれが参加の動機やピースあいちでの活動を話して交流しました。

皆さんの前向きな姿勢を見ていると、「ピースあいちを支えているのはボランティア」ということがよく分かる全体会でした。

ピースあいちのお仕事 紹介

〈 図書班 〉

図書班は現在4名で毎月1回作業しています。ピースあいちの蔵書は登録されている書籍類で2600冊ほど、そのほかの未登録書籍及び資料類を含めると3000冊近いのではと思います。

寄贈図書類には他の平和博物館、平和活動団体や自治体から発行された報告書や資料等もあり、これらの整理も必要とされています。具体的な作業は、寄贈図書及び未登録の図書についての登録可否、登録番号、分類及び配架区分などを決めて、パソコンの蔵書ファイルに登録する作業です。

また寄贈者には受領・礼状等を発行します。登録作業が完了すれば書棚に配架するのですが、現状では配架スペースがありません。寄贈したい図書があるのだけど、あるいはこの本を読みたいといったボランティアさんの要望にも十分応えられません。早急に書棚を補充整備する予定です。

〈 資料班 〉

資料班は、戦争と平和にかかわる資料、約7000点の保存管理を担っています。活動日は、第2第4金曜日。通常は、寄贈資料の受け入れから登録（ID番号付け、写真撮影、物品カード記入、データーベース化）を経て収納までの作業をしています。

7月より、毎年12月初旬から開催される寄贈品展の準備に入ります。新たな寄贈者から資料について聞き取り調査をし、チラシ、目録、会場レイアウト等の作成、展示をし、開催中は関連イベントに参加します。他には、外部への資料の貸し出し、資料の撮影依頼や閲覧に立ち会います。

日頃から地道な作業を通して個々の資料に理解を深め、貴重な資料に触れられることは、資料班ならではの魅力のひとつです。

シリーズ
平和を守る仲間たち⑯

空襲体験を語りつぐ大垣の会

大垣は、1945年7月24日にパンプキン爆弾が投下され、その5日後、7月29日には、焼夷弾による空襲で、国宝大垣城、新築間もない市庁舎等、市街地が焼け野原となりました。

この「大垣の会」は、1989年6月に最初の「語りつぐつどい」を開きました。きっかけは、福岡空襲を描いたアニメ映画「火の雨が降る」の上映会です。映画に触発されて、大垣空襲体験者の方から話を聞いてみたい、と始まったのがこの会です。

当初は、継続的な会とする予定ではありませんでしたが、参加者の方々から、良い取り組みなので、来年もこの会を開いてほしい、との声が出されました。期日は、大垣空襲7月29日に近い日曜日との申し合わせで、それが30数年続いてきています。空襲に限らず、外地での戦闘体験、過酷な引き揚げ体験等々、戦争に関わる話題が広がっていきます。

会のとりくみとしては、年に1回、集まって記憶を語り合うだけのものです。それでも、多くの蓄積が生まれました。紙芝居形式の「大垣の空襲」、語られる姿を記録したビデオ、体験談を募集しての小冊子等々。市街地の戦跡巡りも行っています。小さい会ですが、語りたい、聞きたいとの思いをつなぐ役割は多少できているかな、と感じています。

（事務局長　髙木　正一）

空襲体験を語り継ぐ集い

「大垣の空襲」

戦跡巡り

ボランティアの窓

素晴らしい出会いを大切に

大島 ゆかり

「ピースあいち」のボランティアとしてやっと3年目を迎える事ができました。ここまで、周りの皆さんに教えていただく事ばかりでした。多分野にわたる知識豊富な方々の中では、自分の不甲斐なさを痛感しました。しかし皆さんの暖かいお気持ちに救われ、続ける事ができました。そして、「ピースあいち」の朗読の会・オリーブでは、メンバーの皆さんと、戦争の悲惨さと平和の大切さを多くの方に伝えるために励んでいます。

過去の戦争は、多くの命を奪いました。そして、今、ロシアのウクライナ侵攻は、一年を経過しましたが、まだいつ終わるのか分からない状態で、やりきれない気持ちです。

私たちの今の平和は、過去の多くの犠牲の元に成り立っています。その事を再認識し、戦争体験のない世代の人たちに伝えなければならないと思います。私は、ここ「ピースあいち」で出会った方々と共に、平和を願い続けます。

父に抱かれた「たった1枚の写真」

服部 忠一朗

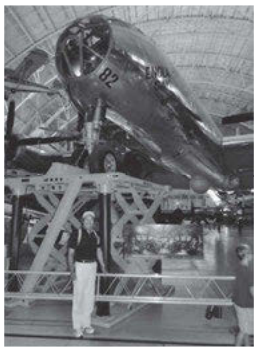
70歳にして「ピースあいち」のボランティアになり、すでに10年が経ちました。来館した子どもたちへのガイドを引き受けています。

父は、私が2歳になる前に赤紙召集で満州に送られ、敗戦後シベリア抑留になりました。翌年、栄養失調で役に立たなくなり、日本へ送り返される途中、病気で亡くなりました。戦死の公報が届いたのは、小学5年生の時。白木の箱に紙切れ1枚を受け取りました。

父と私が一緒に写っている写真は、父の出征時の記念写真のみ。孫4人が来ると、必ず一緒にこの写真を見て、「戦争はいやだ、ずっと平和でいたい」と思うようにと願っています。そして、そのために「ピースあいち」でささやかな努力を払っていると話しています。

資料館探訪 34

ウドバー・ヘイズィー・センター（Udvar Hazy Center）



ライト兄弟が人類で初めて機動力で空を飛んだ時から100周年を記念して2003年に航空宇宙博物館別館として開館した。中部国際空港を離陸してデトロイトで乗り換え、ワシントンD.C.のダレス国際空港に着くと空港に接した広大な建物がある。そこには世界最大数の名機が160機程展示してある。日本人として是非見ておきたい航空機はB29エノラ・ゲイである。やや見上げる位置に係留されている原爆投下機は今でも昭和20年8月6日に広島の空を飛んだ時と同様に金属の機体でキラキラと輝いている。その下には日本の紫電改、月光、晴嵐、屠龍（とりゅう）、桜花が並んでいて、改めてB29の大きさが認識できる。他にも、太平洋で日米が交戦したグラマンF6Fヘルキャットやコルセア、P38ライトニングなどが見られる。ベトナム戦争で実戦配備されたトムキャットやファントムなどから現代のコンコルド、スペースシャトルまで色鮮やかに展示されていて、これほどの歴史的名機が数多く展示されている博物館は世界中でこの場所しかない。（M・Y）

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン（無料）」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください！

「ピースあいち」では新たな会員を募集しています。健全な組織運営のために、あなたの力をお貸しください。

「ピースあいち」の年間支出は平均して1100万円程度です。対して収入は、基本的には3本柱で賄っております。一つは入館料収入です。展示会などにおいでの方々から大人300円、子ども100円をいただいております。二つ目は寄付金や助成金収入です。これは時に大きな助けになることもありますが、不確実です。そこで三つ目の年会費が一番の柱になっています。会費は正会員から年額6000円、賛助会員から同3000円です。2022年11月現在、正会員は353人、賛助会員は407人ですが、これを少しでも増やしたいと思っております。「ピースあいち」の活動に共鳴できる方なら、どなたでも結構です。電話、FAX052−602−4222にご一報下さい。クレジットカード、銀行振込でも入会、寄付をしていただけます。

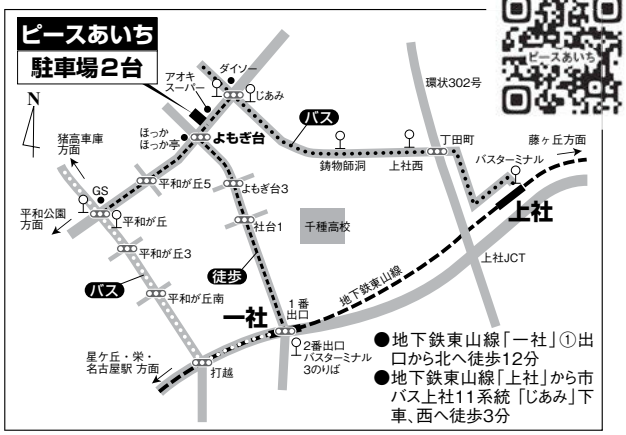
オンラインの**入会**はこちら

オンラインの**寄付**はこちら

【利用案内】

- 開 館 日　火曜日～土曜日
- 開館時間　午前11時～午後４時
- 休 館 日　日曜日・月曜日
- 入 館 料　大人 300円 小中高生 100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下のくらし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります（300円）。他に障がい者用が1台分あります（無料）。

■交通のご案内



●編集後記●

石垣島という字をよく目にするようになりました。それも船底から見える海中のサンゴ礁や、特産の石垣牛の料理の話ではありません。ミサイル基地、駐屯地といった防衛力強化にからんだ話です。中国がこのところ軍備を強化し、とりわけ海軍力を増強していることが、日本政府や日本人を刺激しているのでしょうか。沖縄本島はここ80年近く基地の島でしたが、いまや石垣島も与那国島、宮古島、奄美大島などと同様、新しい防衛力の受け皿になってきました。5月16日から始まる「沖縄から平和を考える」は、準常設展に南西諸島の昨今の情勢を加えて展示します。詳しくは本号2ページで。（S.K）